

令和6年度 第2回 飯山市地域公共交通会議 顛末

令和6年11月8日（金）15時00分～16時00分
飯山市役所 4階 全員協議会室

1 開会（進行：総務部長）

2 会長あいさつ（市長）

当会議では、令和4年度に策定した「飯山市地域公共交通計画」に沿って市内公共交通の利用促進や運行ダイヤの見直し等を進めている。

そんな中、日々の移動に対して不安を感じている市民の方が公共交通を利用するきっかけになるように、各地区の敬老会で「マイ時刻表」のサービスを紹介する等、利用促進に向けた取り組みを実施してきた。

課題は多いが、持続可能な地域公共交通を実現するために、皆様方のご意見やご提案をいただきながら、今後も課題解決に向けて取り組んでいきたい。

3 協議事項（進行：会長）

（1）合庁線のダイヤ改正について

・・・資料1

別紙、資料1を事務局が説明。

質疑応答

（委員）ダイヤ改正の理由が、通勤時の混雑で予定通り到着しないということだったが、10分程度運行時間を早めただけでは解消できないのではないか。

そもそも根本的に混雑しているのであれば、ダイヤも含めて見直すというようなことも考えられると思うが、そうしなかったのは何故か。

（長電バス）もっと時間を早めることも検討したが、運転手の勤務時間の短縮も図らないといけないため、10分程度早めるのが限界だった。

（委員）10分程度早めるのが限界ということは十分理解しているが、混雑があるのであれば到着時間自体を遅く設定しないと、また同じようにダイヤとの乖離が生まれてしまうかと思うがその辺りはいかがか。

（長電バス）今回のタイミングでは、ひとまず出発時間を早めるという対応を取りたい。今後設定した到着時間に着かないことが頻発するようであれば、ダイヤの見直しを図っていきたいと思う。

（委員）承知した。また様子を見ながらご検討いただければと思う。

（会長）他にご意見等なければ、この内容を承認することで、異議なしでよろしいか。

<異議なし> ⇒承認

(2) コミュニティバス斑尾線の冬期ダイヤについて
別紙、資料2を事務局が説明。

・・・資料2

質疑応答なし

この内容を承認することで、異議なしでよろしいか。〈異議なし〉
⇒承認

(3) 飯山市地域公共交通会議規約の一部改正
及び財務規程の制定について
別紙、資料3を事務局が説明。

・・・資料3

質疑応答なし

この内容を承認することで、異議なしでよろしいか。〈異議なし〉
⇒承認

4 その他

(1) 飯山養護学校からの要望について

(委員) 飯山養護学校からご要望をいただいたのでこの場で申し上げたいと思う。

飯山養護学校は木島バス停(旧木島駅)の近くに学校があり、バス停から路線バスやJR飯山線を乗り継いで登下校しているお子様がいますので、下校の際、15時に学校を出たとしても、自宅に帰るのが17時40分過ぎになるとのことなので、路線バスとJR飯山線の乗り継ぎを考慮してダイヤを作っていただけるとありがたい。

もう1点は、登下校に路線バスや乗り合いタクシーを利用しているお子様がいますので、どちらも料金は100円で大変ありがたいと感じているが、共通の回数券がないため、なかなか利用しにくいという話を伺った。学生の利用促進に繋がるかと思うので、共通の回数券等の導入もご検討をお願いしたい。

(事務局) 1点目の乗り継ぎという点については、飯山養護学校から詳細な状況を伺ったうえで、長電バスやJR長野支社と相談しながら、ダイヤについて検討させていただきたいと考えている。

2点目の共通の回数券についても、利便性の向上と利用促進のために前向きに検討させていただきたいと思う。

(委員) 今の話に関係して、やはりこれからの世の中、様々な人がそれぞれ自分の自己実現のために、外に出て行動ができるというのが一番望ましいと思う。

公共交通について一住民として考えたときに、路線バスの減便等もやむを得ないかと思うが、やはり困ってる方、特に障害をお持ちだったりする方が、これから自立して、一社会人として生活を送っていく上で、学生時代に安心して登校ができるということは、自己肯定感の向上に繋がるとても大事なことだと思う。

1人のために社会を変えるということではないが、数としては少ないけれども、そういう方たちのことも考えていくことが、これからは求められるかと思うので、ぜひとも前向きに取り組んでいただければありがたい。

(事務局) 地域公共交通計画を策定させていただいた際には、そういうことも踏まえながら計画を策定させていただいた。その実現に向けて今いろいろな施策に取り組んでいるので、いただいた意見を参考にしながら、今後の計画推進に努めていきたいと思うので、よろしいをお願いします。

(2) キャッシュレス決済の導入について

(事務局) 公共交通計画の中で、バスのキャッシュレス決済の導入について検討するようになっているため、この場をお借りしてキャッシュレス決済をテーマに少し意見交換をさせていただきたいと思う。

※追加資料「長野県内バス路線のキャッシュレス決済導入状況」を事務局が説明。

(県交通政策課) 県の補助事業(地域連携 IC カードの導入経費の 1/3 を補助するもの)については、昨年度から実施している。今年度は長野地域で令和 7 年 3 月から使えるようになる地域連携 IC カード「新 KURURU」で 1 件と、野沢温泉村の野沢温泉ライナーで令和 6 年 12 月から地域連携 IC カードがサービスインするということで県内では把握している。

報道ベースになるが、この他にも 11 月 5 日に松本地域においても地域連携 IC カードが令和 8 年の春以降使えるようになるということで承知している。来年度以降の導入についても複数市町村から相談を受けているところである。

県としても、地域連携 IC カードでキャッシュレス決済を進めるという方針のもとを進めているので、導入を検討される場合であれば県や国の補助事業を活用していただいて導入を進めていただきたいと思っている。

(野沢温泉村) 野沢温泉ライナーは、令和 6 年 12 月 14 日にキャッシュレス決済サービスを開始する予定。内容としては、バス 4 台に車内端末をそれぞれ設置するものと、それに係るシステム等の導入、併せて飯山駅並びに野沢温泉村の中央ターミナルにそれぞれ 2 台ずつ設置されている券売機を、クレジットカード決済対応のものに更新する。

枠組みとしては以上のような形になっているが、ご紹介いただいた地域連携 IC カードも運用開始以降、同時に使えるように準備を進めているところである。先ほど交通政策課からも話があったが、様々なところから財源的に補助をいただいている。

(長電バス) 長電バスの導入状況は追加資料の通りだが、急行タングラム線と急行志賀高原線では車内タブレット端末を使った、クレジットカードのタッチ決済と QR コード決済に対応をしている。長野地域では、現在は地域限定の交通系 IC カード「KURURU」が入っている状況で来年 3 月からは、地域連携 IC カードの導入を予定している。

タッチ決済の方だが、現在導入しているタブレット端末は、若干決済スピードが遅いという点がある。クレジットカードをタブレット端末にタッチした後に、クレジットカードが有効か無効かの判定を通信ですてから決済処理をするというシステムになっており、若干清算に時間がかかっている。IC カードの方については、かざした瞬間に決済されるのでタイムラグはほぼない。

キャッシュレス決済のメリットとしては、多くのお客様の利便性が向上するという点。タッチ決済で言えば、外国人の方で地域連携 IC カードは持ってる方はおそらく少ないと

思うが、クレジットカードを持ってる方は多いので、外国人も含めて色々な方に便利に使っていただける点はメリットになる。また、小銭等を持たなくて済むので両替をする手間も省けるといところで利便性の向上には非常に役立つものかなと思っている。

逆にデメリットを考えると費用負担というところが一番大きいと思う。導入するときには国の補助等があるが、システム更新が5年か10年ごとに発生するため、その際に多額の費用が発生してしまう。現在、システム更新には国の補助は出ないような仕組みになっているので、事業者や自治体が費用負担をするという点が一番大きなデメリットかなと思っている。熊本県内でも地域連携 IC カードを導入していたが、やはりシステム更新時の費用負担が大きいということで、地域連携 IC カード事業から撤退するというような報道もあった。

メリットとデメリット両方あると思うが、その辺りも踏まえながら、今後導入の可否について、検討していただきたいと思う。

(JR 飯山駅) 昨年6月にプレスリリースをさせていただいたが、令和7年春に篠ノ井線、信越本線(松本ー長野駅間)と大糸線(松本ー穂高駅間)全部で23の駅に新たに Sui ca が導入される予定となっている。弊社としては、Sui ca を導入することによるメリットを広く打ち出していかねばならないと思っている。

新幹線に関しては、東京ー上越妙高駅間(飯山駅も含む)については「タッチで Go! 新幹線」という予め Sui ca を登録していただくことによってご乗車いただけるシステムもあるので、こちらも併せてご紹介をさせていただきたいと思う。

(事務局) キャッシュレス決済に関して各関係者の皆様にご発言いただいたが、飯山市の現在の検討状況についてお話をさせていただきたい。

県交通政策課に試算をしてもらったところ、コミュニティバス斑尾線等に地域連携 IC カード決済を導入すると、1,000 万を超える経費がかかるとのこと。その経費のうち 1/3 は長野県、1/3 は国が補助してくれると伺っている。

それ以外にも、年間の維持費用として毎年 100 万円を超える金額がかかるという試算もいただいている。これが例えば長電バスと共同で複数の路線バスに一気に入れるとなると若干安くもなるというような状況も伺っている。詳しい費用に関しては台数だったり、その他のところで細かく設定されていくので一概には言えないが、多くのコストがかかるということは調べた結果分かっている。

その中で、飯山市としては、JR 飯山駅の中にバスの券売機が設置されているが、現在清算方法が現金のみとなっているため、まずはそれをキャッシュレス決済に対応できるようにできないかと検討を進めている。

(長野高専轟准教授) 観光客視点ではこの地域連携 IC カードは有効に活用されるかなと思うが、一方で地域住民が利用するにあたり、考えていただきたい点としては、例えば高齢者の方の運賃を割引となった場合に、そのような対応がスムーズにできるのか。

他にも複数の路線を乗り継ぎたいというニーズがあった場合に、乗継割引を入れようというときに、スムーズに対応できるのか。利用促進を図る上ではそういった付加価値をつけていく必要があるかと思うが、地域連携 IC カードを導入した際にそのような対応ができるのかどうか、というところを吟味した上で、先ほど導入コストの話もあったが、使い勝手という面でもしっかりと検討していく必要があると思っている。

以前話を伺ったときにはなかなかそういうのが難しいというような状況だったが、そのあたりがスムーズにできるのかどうか、もし今この場にいる方でご存知の方であればコメントをいただきたい。

(県交通政策課) 高齢者割引や乗継割引については、長野地域で新しく導入される地域連携 IC カード「新 KURURU」では、設定が可能というように伺っている。90 分以内に乗り継ぐと割引があるとか、現行のルールでもお出かけパスポートのような高齢者の割引みたいなものがあるので、一応枠組みとしてはできるということだと思ふ。

(長野高専轟准教授) 地域の政策がそのカードにうまく反映できるというところが、やはり利用促進の上では一番大事なポイントだと思うので、ぜひそのあたりもどれぐらいの期間やコストがかかるのかということも精査していただきたい。

(事務局) 多くのご意見ありがとうございます。いただいたご意見を参考に事務局の方でキャッシュレス決済の導入について検討を進めていきたいと思う。また随時委員の皆様には情報共有を図っていきたい。

(事務局) 最後に、この地域公共交通会議を年明け 2 月頃にもう一度開催したいと思う。内容としては、今年度で折り返しの年を迎える飯山市地域公共交通計画の中間報告をさせていただきたい。その際にはまたご連絡させていただくので、ご参加いただくようお願いいたします。

5 閉会 (16 : 00)